

賀詞交歓会

担い手確保が最大の課題

日測協関西

日本測量協会（日測協）関西支部（小林和夫支部長）は1月29日、大阪市中央区の大阪キャッスルホテルで賀詞交歓会を開いた。来賓や会員企業など約100人が出席し、新しい年の門出を祝った。



冒頭あいさつで小林支部長は測量士国家試験の合格率が2024年の13%に対し、25年が40・2%と大きく変動した点を挙げ、「十分な説明のない合格率の激

変は混乱を招きかねない」と指摘。測量士の年齢構成も「50歳以上が65%、40歳未満は12%にとどまる」とし、担い手確保が業界最大の課題だと強調した。その上で、若者の入職が進む魅力ある業界像を示す必要性を訴え、測量CPD（継続能力開発）や資格制度、各種検定の充実を通じて、技術力と社会的評価の向上に取り組む考えを示した＝写真。

来賓あいさつでは、近畿地方整備局の齋藤博之局長が測量の重要性を強調するとともに、国土強靱化関連予算の早期執行に言及。近畿地方測量部の田中宏明部長は改正測量法の施行など現場の声を踏まえた制度運用に意欲を見せた。

乾杯は滋賀県測量設計技術協会の田中伸明会長が発声し、和やかな雰囲気の中で歓談した。